2010MHC 登山講習　「残雪の常念岳登山」報告

5 月 1 日 AM6：30 県安曇野庁舎駐車場に 17 名が集合し、車に乗り合わせ出発する。天候は快晴。新緑が眩しい登山口で準備を整え、AM7：50 一列縦列で出発する。10 分程で、樹齢 300 年以上の橡の木が立つ“山ノ神”に到着。皆で手を合わせ、登山の無事を祈る。

一の沢沿いのカラマツ林の中、残雪深い山道を登る。2 時間程登ると沢が合流する河原に出る。展望が開け見上げると、豪快に聳える白銀の常念岳を望む。ここで、アイゼンを装着して、雪崩痕の小山を登り降りして通過し、常念乗越上方へ延びる雪に埋まる沢筋を直登する。

唐松林の中、残雪深い山道を登る

急な沢筋を一歩一歩雪を踏み登る

常念乗越から望む槍・穂の白銀の稜線

一時間程の登りで森林帯を挟む二股に出合う。ここから左側の狭く急な沢筋を登る。一歩一歩雪を踏み登り続けると、一気に高度を稼ぎ、PM12：45 常念乗越に登り出る。突然正面に、槍ヶ岳から穂高岳への白銀の稜線がその姿を現した。皆歓喜し、今までの登りの疲れもいっぺんに吹き飛ぶようだ。

常念小屋で昼食を摂り中休止後外出。横通岳方向の雪斜面を利用して、滑落停止の練習を繰り返し行う。振返ると、白雪を頂いて聳える常念岳の雄々しさに圧倒される。PM4：00 小屋へ戻り泊す。

5 月 2 日快晴、微風の朝、AM7：30 アイゼンを装着し、山頂を目指し出発する。雪斜面につけられたトレースをたどり、高度を上げると、青空の北方彼方に、双耳峰鹿島槍ヶ岳、大きな山容の立山連峰が連なり、西方には、槍ヶ岳の先峰が一層高く天を突いて聳えている。

滑落停止の練習を繰り返し行う

AM9：05 常念岳山頂に、全員見事登頂する。「おめでとう！」皆と笑顔で握手を交わし合う。山頂は、道標と祠を残し、すっぽり雪に覆われている。山頂の南西斜面に陣取り、テルモスの熱い茶を啜る。正面には、白銀に輝く穂高岳連峰の雪稜が、手に取るように大迫力でそそり立っている。その景色に見とれながら、皆で憩いのひとときを過ごす。

白雪を頂いて聳える雄々しい常念岳

槍ヶ岳を背景に頂上直下を登る

常念岳山頂に全員見事登頂

南方向に、山頂から続く尾根伝いに蝶ヶ岳が連なり、その西方に、真白な乗鞍岳、木曽の御嶽山の峰々を眺望する。私達は 30 分程展望を楽しんだ後、惜しみながら下山を開始する。

AM10：20、無事小屋に到着。早めの昼食を摂り、AM11：30 常念小屋から下山を始める。往路と同じ雪の一ノ沢ルートを、滑落停止訓練をしながら降下する。PM2：15 登山口に到着。PM3：15、参加者の車が待つ県安曇野庁舎で解散とする。

「春浅い山麓と、真白な雪に覆われた常念岳。ピッケルとアイゼンを使い、勇気を奮って登った山頂。白銀に輝く峰々の美しさと共に、心に残る感動的な登山だった。」、

MHC 登山講習責任者　MHC 理事長　鈴木雅則